

水銀削減で国際協力強化 ー環境省ー



今年2月の国連環境計画 (UNEP) 管理理事会で、水銀に関して条約化を含めた対策強化を検討することが合意されたのを受け、環境省は昨年度から作成に取り組んできた国内のマテリアルフローや排出インベントリ(排出量の目録)を理事会ワーキンググループなどの場で、積極的に提示することで、国際的な水銀の排出・使用削減への取り組みについて、主導的な役割を發揮していくようです。また水俣病の経験国として、排出削減・代替技術を磨いてきた蓄積を生かし、UNEP 重金属プログラムにおいて、BAT(利用可能な最良技術)ガイドラインを策定する予定です。日本発の世界標準として、普及を図ることで、地球規模での排出削減に貢献していく考えです。

現在、先進国・途上国問わず、水銀のほかカドミウム、鉛などの有害金属は、工場、焼却炉からの大気排出による長距離移動や、廃棄された電子電気機器からも流出して、汚染を引き起こしています。これらの状況から UNEP で論議が進められており、2年後の次回開催時には条約化を含めた検討が予定されています。

環境省では、これらの動きを受けて、来年度、これまで進められていたマテリアルフローおよび排出インベントリを進めていくとともに、BAT ガイドライン作りにも乗り出すようです。

水銀の排出インベントリは海外で作られた例がほとんどなく、環境省では、これまでの成果を今年11月にタイ・バンコクで開かれる理事会の準備ワーキンググループ会合で提示し、情報の共有化、インベントリ作りを呼びかけるようです。

来年度の事業予定では、廃棄物処理施設での測定、鉄鉱石などの原料の含有量調査を行い、マテリアルフローの精緻化を図るようです。また日本の技術の世界標準としていくことで、大気・製品経由での国内流入を防ぐとともに、国際貢献を果たしていきます。

また環境省では、国際的観点からの有害金属対策戦略を策定するための基本的な検討を行うため、学識経験者等からなる有害金属対策基礎調査検討会の平成19年度第1回の会合を10月5日に公開で開催します。

当社では水銀、カドミウム、鉛など有害金属の製品や環境分析には実績があります。お気軽にお問い合わせください。

資料 2007年9月11日付 化学工業日報
2007年9月20日付 環境省 報道発表資料

無機分析箇所 竹下尚長